

中学生や高校生年代のためのオンラインプログラム 「meandthem」

オンラインプログラム「me and them」は、以下のことを目的に作成しました。

子どもたちが

- ・固定観念にとらわれず、多様性を認め合えるようになること
- ・性別を問わず、自分の可能性を信じて、よりよい未来を構築していくこと

ぜひご活用ください。

参考

◆内閣府男女共同参画局
<https://www.gender.go.jp/index.html>



◆ガールスカウト日本連盟 報告書
<https://www.girlscout.or.jp/activities/project/research/>



公益社団法人ガールスカウト日本連盟

世界152の国と地域で約1,000万人が活動している少女と女性のための社会教育団体です。彼女たちを取り巻く環境や問題に向き合い、少女と女性が自らの可能性を最大限に発揮できるようにすることを目指しています。活動においては、力をつけた少女たちが地域のコミュニティ、そして世界中で活躍できるよう、SDGsの学習機会をはじめ、リーダーシップを養う教育プログラムを提供しています。また、ジェンダーに関する問題の解決に向けては、少女と女性だけでなく少年や男性と共に学び、取り組むことが重要と考え、その機会を提供しています。

発行元：内閣府男女共同参画局
〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1
TEL 03-5253-2111 (代表)

公益社団法人ガールスカウト日本連盟
〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-40-3
TEL 03-3460-0701

協力：NPO 法人ピルコン

後援：JAWW (日本女性監視機構)
公益社団法人ガールスカウト神奈川県連盟
一般社団法人ガールスカウト京都府連盟
ガールスカウト香川県連盟

2021年3月



中学生や高校生年代のための、
オンラインプログラム

meandthem 



QRコードもしくはURLより
アクセスしてください



URL:
<https://www.girlscout.or.jp/meandthem/>

ジェンダー平等の実現に向けて



いま世界では、持続可能な開発目標(SDGs)として17の目標を掲げて、様々な取組が行われています。

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月に国連で採択された、2016年～2030年までの国際目標のことです。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むため、先進国を含む国際社会全体の目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を掲げています。その目標の一つである、ゴール5ではジェンダー平等の達成が掲げられており、すべての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものとされています。



一見、子どもたちは男女平等の環境で生活しているように思われますが、まだまだ「女の子だから」「男の子だから」と性別による固定的役割分担意識が日常の中に多くあります。このような意識は、幼少の頃から長年にわたって形成され、女性にも男性にもあるものです。そのため、子どもの頃から性別役割分担意識等を植え付けず、また押し付けない取組はとても重要です。誰もが生きやすい社会となるためには、性別や年代を問わず、この問題に取り組むことが解決の近道となります。また、このオンラインプログラムではデートDVや痴漢といった問題等についても取り上げており、社会の仕組みを知ることや、困った時に相談できる場所があることを知り、自分や友達を守ることに繋がります。

ジェンダーとは

「社会的・文化的に形成された性別」のことです。人間には生まれつきの生物学的性別があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」といいます。これは、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。



プログラムの進め方

プログラムは全6ステップで構成されています。スマートフォンやパソコンでステップ順に動画を再生し、視聴してください。

また、可能であればワークシートを印刷してください。ワークシートを併用することにより、更に理解を深められるようになっています。各ステップにおいて、ワークシートと動画視聴に取り組む順序は異なりますので、進め方はウェブページを参考にしてください。

子どもたちが一人で取り組む際に分からないこともあるかもしれません。保護者・指導者の皆様も、ぜひ一緒に取り組み、考え、話し合い、子どもたちが多角的に取り組んでいけるよう、サポートをお願いします。

プログラムの構成

1 ジェンダーに関する言葉を知る

日常にある、「女の子だから」「男の子だから」という性別役割分担意識から生じている事柄を考えます。

2 活躍している女性にインタビュー

性別にとらわれず、自分のなりたい姿を描きます。大人の固定観念で、「女の子だから、この職業は適さない」「男の子っぽい」「男の子だから、こんな職業につくべき」などと、子どもの未来を狭めてしまわないことが大切です。

3 ジェンダーロールについて考える

長年にわたり人々の中に形成された固定的な性別役割分担意識や、性差に関する偏見や暴力等気づききっかけとしています。

4 デートDVについて知る

人と人の関わりの中で、自分が嫌だと思ふことは、イヤだと伝えて良いことを学びます。また、相手がイヤだと伝えている場合は、その気持ちを尊重し受け入れることが大切であることを学びます。デートDVは性暴力につながる場合もあります。

5 相談できる場所を知る

痴漢やデートDV等の性暴力の被害にあつたと、「被害にあったことは、自分が悪い」と思い、誰にも相談できず、自分の存在否定につながってしまう場合もあります。しかし、相談できる場所を知っていたら、子ども自身で助けを求めることができるかもしれません。些細なことでも相談して良いことを教えます。また、友達が悩んでいる時にどうしてあげたら良いかというヒントを学びます。

6 自分の声を社会に届ける

ステップ1～5で学んだことを、自分の言葉で伝える経験を行います。具体的には、オンラインフォームを使用して、気づいたことや感じたことを発信します。集まった声は、個人が特定されないよう配慮し、子どもたちの声としてガールスカウト日本連盟が、SNSなどで発信します。